

我れくの務めでわあるまいかと思ひます、今后大にかゝる方面に向つて、お互に盡力致したいと思ひます。

家庭に於ける所感 (承前)

長野市 飯塚忠次郎

(土)小兒と日記

日記とはよんで字の如く其日そのひの事柄を思ひのまゝにかくので御座いまして、即ち、そのひのうちにあつたをや、したこと、なぞをつくらずかざらずかきつくるのでありますけれど、然し完全したところの日記を未だたえれなき無經驗の小兒たちに、私等が要求することはあまりにむりであるかもしれませんが、私はあながち始終一讀瞭然たる完全な日記を小供にかゝせると申すのではありませぬ、たいせめてはまがりなりに不完全

ながらも日記をかくことを教へていたゞきたいのであります、作文の練習になることは勿論、後になつてみると大に参考にもなつてよかるうかと存じますから、大に御獎勵あらんことをのぞむのであります、さて、其教へかたには色々よい方法が御座いまいしうが、先づ簡単に説明申そうならば、先づ第一に年月と天候とをかゝせることで、一寸申せば今日は何年の何月何日であつて何曜日であつた、雪がふつたとか、雨だとか、または、風だとか、晴だとかといふようなことをかゝせるので、そのようなことがすらすらとかけ得る様になつたならば、第二にうつるのです、今日はどうしてあそんだとか、先生にほめられたとかと、自分の行爲をかゝせるのです、それもわけなくかけるようになつたならば、第三にうつるのです、他

人のことやら、自然のことをかくことを教へる、けふは誰れがきたとか、庭にながさいていたとか、とりがよいこえをしてないでゐたとかと、いふようなことをかゝせる、それもよくかけるようになったならば、第四にうつるのです、即ち、感じたことをかゝせることで、學校からかへつて來るとちうでみた女兒はかわいそうだったとか、けふは母さまにねほめ言葉をいたゞいてたいへんうれしかつたとか、又は自分はこう思ふなぞと、これにふれものにせつしてかゝることがらをかゝせるのであります、それがみんなかけるようになればつきひのたつちにはかくこともなれてきて字もきれいに完全な日記がそこではじめてできあがるようになります。此日記に用ゆべくてきせつなる文体は言文一致体であるかと思はれます。

これは家庭に於ける文學の一端ともなり得ずし、又日記ほど小兒にとつて有益なものはないので、自分が成長の後ちの参考となることは申迄もなく又昔を物語る友ともなりますからせひとも日記をかゝせることをお教へなさるよう渴望致します、まへにも申上げた如く日記をかゝすことを教へてふくとしらさしらすのうちに、習字のけいこにもなり幾分なりとも作文のたすけとなることであります、なるべくならば一定した野紙に筆でかゝせることです、鉛筆でもわるいことはありませんけれど、鉛筆ではつきひのたつにつれてすりきえたりにして文字がわからなくなりませうから、鉛筆でかいたものは永久に保存してをくなんていふことは難事せう、ですから手數かもしれませんけれどなるべく筆でかゝせるようなしうかんをつけては

しいのであります。

それで日記はいつごろからはじめたならよかろうかといふに何れ自分で書ける時になつてからでなくてはなりません、即ち學齡に達してから徐々にかくことをおしへたならばよいことと思ひます、初めはごく簡單にして小兒の智育と精神の發達につれて、第一、第二、第三、第四といふように順序をふんでだんぐと教へてやるのです、近來日記の必要からして色々な日記帳ができたようではあります、私はむしろ小兒などには各自の家庭の人々がさだめてやつて、一定したけいしにかゝせてゐるところがあつたならてんさくをしてやるのです、日記はまことに人間の一生の歴史であります、そして日記のうちには必ず虚言とか、悪口とかをかゝせぬ様平素から注意せねばいけません

ん、自分の心からわらだしたことをかゝせるように教へねばなりません、ありもしないことをかゝせてはいけません、日記がらくがきにならんやうにくれぐれも心がけていたゞきたい、何卒その心ぐみで此の日記をかくことを教へ、その風習を小兒のあいだに鼓吹してくださいます、小兒の日記は變じて青年日誌となり、家庭日記となり、猶進んでは國家日史となるのでなんと皆さま大きなことではありませんか。(未完)

